

かごしま

[平成28年12月]

KAGOSHIMA
TANADA TSUSHIN

棚田通信

ご自由にお取り下さい
TAKE FREE



(日置市東市来町 尾木場の棚田)

- 棚田・棚畑の役割
- 鹿児島県内の棚田保全活動の紹介
- ようこそ! 棚田の里へ (さつま町農家民宿薬師様)
- 尾木場の棚田とともに
- 農業体験学習の魅力



棚田の役割

1

食料の生産

- ・おいしい棚田米
- ・食料生産の場

2

国土の保全

- ・洪水防止
- ・土砂流出防止
- ・地すべり防止

3

水資源のかん養

- ・水を地下に浸透させ地下水をつくる

棚田は

いろいろな役割を
持っています

4

生態系の保全

豊かな動植物を育む

5

景観

独特の景観美

6

地球環境の保全

- ・大気の浄化
- ・水質浄化

7

保健・休養の場の提供

- ・農作業体験を通じた健康
- ・やすらぎ

棚田・棚畑ってなんだろう??

山の斜面や谷間にある段々の田んぼや畑のことを「棚田」「棚畑」といいます。畦の重なる形が棚に似ていることから、そのように呼ばれるようになりました。

棚田や棚畑は、山間の高いところに多く、訪れる人の多くが「懐かしい」と感じる原風景であり、私たちの先祖が機械もなかった時代に想像もできないほどの時間と労力をかけて、一枚一枚切り開き、そして、長年守り継いできた大切な地域の遺産とも言うべきものです。

しかしながら、棚田での仕事の大変さや棚田に住む人たちの高齢化や集落人口の減少などで、どんどん耕作が放棄され、県内でも消滅する棚田が増えています。

鹿児島県内の棚田保全活動の紹介 I LOVE 棚田



棚田名：ひよと松の棚田 面積：0.80ha
所在地：南さつま市大浦町ヒヨト松 平均標高：60m

【お問い合わせ先】
住所：南さつま市大浦支所産業振興係
TEL：0993-62-2111

久保地区むらづくり委員会

久保地区むらづくり委員会では耕作放棄地を開墾し、米や野菜に加えオリーブやアボカドの栽培も手がけています。

委員会の若手会員で1ターン者の窪壮一郎さんは、この地でとれる柑橘類や農産物を加工して、コンフィチュール（フランス語でジャム）やクッキーをつくり、地域おこしの1つとして奮闘しています。



棚田名：上野の棚田 面積：4.80ha
所在地：日置市東市来町湯田 平均標高：180m

【お問い合わせ先】
日置市東市来支所 産業建設課 農地整備係
TEL：099-274-2114

上野棚田保全会

上野の棚田は明治初期の頃から作られた、石積の棚田です。山からの豊富な湧水が鹿丸池を満たし、その水で耕作が行われます。池には釣りをを楽しむ人達が多く訪れるのですが、人目に付きにくい山中なので、ゴミの放置や持ち込みが後を絶たず、耕作者の方々はたいへん迷惑をうけていました。

そこで、池周りの雑木を切り見通しよくしたり、紫陽花や彼岸花を植えて景観よくしたところ、ゴミの放置などが激減し明るい棚田地域になりました。

今後もよりいっそう保全活動に力をいれ、棚田を守っていくとともに、散歩コースを作り、憩いの場所にしたいと夢が膨らんでいます。



孫がご飯が
美味しいと
言ってくると、
とても嬉しいです。



代表／柳園 利也さん





思いやりと助け合いの精神で
結成された薬師農地保全会。
これからも様々な事に挑戦します。



薬師農地保全会



さつま町永野地区南方神社みなみかたの秋の例大祭に「薬師農地保全会」が主となり、創作芝居「田づくり模様」を奉納しました。

身の回りのもので農耕牛や田車、足踏み脱穀機などを手作りし、アドリブ全開で昔懐かしい農作業の様子を演じると、参加した全員から拍手喝采。

参加者の笑顔や笑い声に、「来年はもっと工夫して、喜んでもらえる楽しい芝居にするぞ」と、会員の士気がより一層高まりました。

(注) 南方神社は大国主神（おおくにぬしのかみ）の御子神の建御名方神（たけみなかたのかみ）と事代主神（ことしろぬしのかみ）が奉られ、農耕神・狩猟神として信仰されています。



棚田名：薬師の棚田 面積：5.30 ha
所在地：薩摩郡さつま町永野 平均標高：250m

【お問い合わせ先】
さつま町薩摩支所 耕地林業課薩摩耕地林務係
TEL：0996-53-1111



棚田名：寺元の棚田 面積：3.30 ha
所在地：薩摩郡さつま町永野 平均標高：134m

【お問い合わせ先】
さつま町薩摩支所 耕地林業課薩摩耕地林務係
TEL：0996-53-1111

寺元棚田保存会

寺元の棚田では、米づくりに重要な湧水を取り込むための水路が、長い年月の末ひび割れて、水漏れするようになったため、1～2月の農閑期を利用して、会員で新しい水路に取り替えしました。

極寒の足場の悪い山中での作業は、危険を伴う重労働です。古い土管を掘り出し、大きな石を取り除きながら新たに溝を掘り、15本の新しい水路に取り替えしました。

会員一丸となって取り組んだ結果、予想以上に早く作業を終えることができました。まだまだ、取り替えの必要な箇所が残っています。

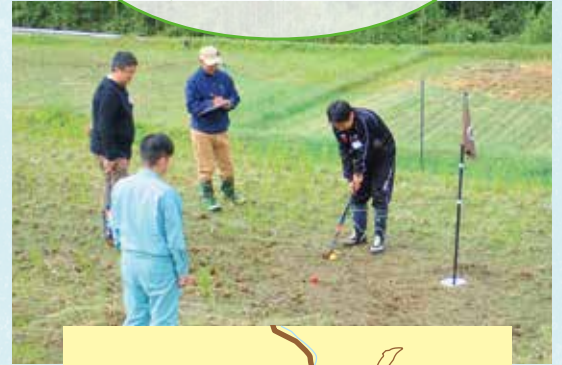
これからも補修作業を続けていき、きれいな水を棚田に取り込み、美味しい棚田米が育つようにしていきたいと思います。

寺元の棚田は2月の
さつま町永野ウォーキング大会の
コースの一部になってます。
ぜひ棚田を見に来て下さい。





みなさん、6月から
始まる米づくりと11月の
田園ゴルフを体験してみませんか。
楽しいですよ。
ご参加をお待ちしてます。



藤本地区農地保全会

藤本地区では都市住民の田植え・稲刈り体験に加え、地域住民と一緒に田園ゴルフ大会を行います。

樋脇町はホッケーが盛んで、市町村合併をきっかけに、藤本地区ならではの行事として始まりました。

稲刈りが終わった後、でこぼこの田んぼで行われる田園ゴルフ。老いも若きも、ホッケースティックとゴムボールで悪戦苦闘です。今年も、のどかな田んぼに歓声や笑い声が響きわたりました。

団体・個人の上位者に賞状や賞品が送られ、米づくり体験参加者全員に新米の棚田米がプレゼントされました。

棚田名：当別戸の棚田
所在地：薩摩川内市樋脇町市比野
面積：2.38ha
平均標高：200m

棚田名：岩下の棚田
所在地：薩摩川内市樋脇町市比野
面積：1.77ha
平均標高：200m

【お問い合わせ先】
薩摩川内市樋脇町市比野9926-3
藤本地区コミュニティ協議会
TEL・FAX: 0996-38-1080



棚田名：新永吉の棚田
所在地：指宿市池田新永吉
面積：2.60ha
平均標高：83m

【お問い合わせ先】
指宿市役所耕地林務課耕地係
TEL: 0993-22-2111

新永吉棚田保全委員会

指宿市立池田小学校では、米づくりの学習を行っています。

昨年12月12日の「土曜学校」で、米づくりの最後の体験として「餅つき」をすることになり、古くから交流のある「新永吉棚田保全委員会」に協力依頼がありました。この日のために保全委員会の方が、伐採した松で「うす」を作ってくれました。

委員会の方から、杵の使い方や餅の丸め方を指導してもらい、全校児童40人が、一人ずつ餅つきを体験しました。

餅をつき、餅を丸める作業は、思った以上に難しかったようです。正月餅はお店で買つか、機械のスイッチを入れたら出てくると思っている子ども達にとって、餅米洗い・蒸し作業・手混ぜ・餅ちぎりの幾多の工程は、とても貴重な体験になりました。

今年も12月10日（第2土曜日）に開催されます。昨年の経験を活かし、もっと上手に餅つきができることでしょう。

新永吉の棚田米は
平成12年に天皇陛下に
献上した米。
子ども達との餅つきを楽しみに
今日も元気に棚田を
守っています。





おなかいっぱい食べて下さいね。
おじちゃんとおばちゃんが待ってます!

ようこそ! 棚田の里へ



農家民宿 薬師様 (やくしさま)



さつま町永野地区薬師で棚田の保全活動をしている、薬師農地保全会の上別府さんご夫婦を紹介します。

棚田での農業体験を通して、この地の良さを多くの人に知ってもらいたいと、町グリーン・ツーリズム研究会に参加し、平成22年1月に農家民宿を開業しました。

標高250mに位置する薬師地区は、静かな農山村です。聞こえるのは山から流れ出る水の音や虫の声、時折鹿の鳴き声も聞くことができます。

農業体験にいそしむもよし、ただただゆっくり、心を癒やすも良しの「薬師様」です。

また、地元で採れる旬の野菜をふんだんに使った料理は、心や体にとってもやさしいごちそうです。

鹿児島朝は、「茶節」。

今では懐かしいものになってしまった茶節をここ「薬師様」では宿泊者に鰹節を削って貰い、必ず飲んで頂いています。

削りたての鰹節に手作り味噌を混ぜ合わせ、熱いお茶を注ぎ頂く茶節は、目覚めたばかりの体に染み渡り、農家民宿での1つの思い出になることでしょう。

親戚の家に
遊びに行ったように、
過ごして下さいね。

★ 季節に応じて 体験していただけるメニュー

- ・米づくり
(田植え・草取り・稲刈り・脱穀)
- ・野菜の植え付け
- ・野菜の収穫
- ・南高梅の収穫
- ・草刈り・立木の枝打ち作業
- ・そばづくり
(そば植え・そば刈り・そば打ち)
- ・けせん団子づくり など



薬師の棚田で
できた清流米は
美味しいですよ。

お問い合わせ先

さつま町農政課内
グリーン・ツーリズム研究会事務局
☎0996-53-1111 (代表)



おこば —尾木場の棚田とともに



の がみ みさお
野上 操氏

日置市の最北端に位置する尾木場の棚田は、野上休右衛門が明治18年から45年間の歳月をかけ、開拓した美しい石積の棚田です。

この地に生まれ育った野上操さん（90歳）は祖父の兄にあたる、野上休右衛門さんから農業の手ほどきを受け、終戦直後にこの棚田を受け継ぎ、70年あまり守り続けてこられました。多くのメディアに取り上げられている操さんの掛け干しは、200mの美しい曲線を描く芸術品と言っても過言ではありません。

平成22年に最愛の奥様に先立たれた後は、一人で家事をしながら、75aの棚田を耕作し、野菜づくりや梅干しなどの常備品づくりもされています。農作業の合間には、盆栽教室に通って、楽しい趣味の時間を過ごされているそうです。「今年90歳になった」と言われる操さんの言葉は、冗談に聞こえてしまうくらい元気で明るい方です。

しかしそんな操さんにも、気がかりな事がありました。先祖から受け継ぎ、守り続けてきた棚田の事です。「周りの人はまだまだ大丈夫と言ってくれるが、さすがに大変だ」と言われます。

これまで大切な棚田を受け継いでくれる人を探してきましたが、なかなか思うように事が運びませんでした。しかし昨年、隣の野下集落にいる遠縁の田を見に行き、そこで自分の棚田に対する思いを受け継いでくれる人に出会うことができました。

立和名博記さん（57歳）。
縁とは不思議なもので、野上操さんが自ら調べ作り上げた家系図から、お二人は遠縁にあたることがわかりました。

博記さんは現在、会社勤めをされながら、33aの田を耕作されています。

操さんに話を持ちかけられた

時のお気持ちをお聞きしました。

「高齢にもかかわらず、先祖の田を守るために必死に頑張っている操おじさんをみて、僕はまだ50代、少しでも手伝いできるかもしれないと思いました。後継者と言われると、とても荷が重たいです。棚田を守り受け継ぐことは、苗を植え、稲を刈るだけではありません。日々、棚田と語り自然と相談しながら、試行錯誤して作業しなければいけません。

僕にできるだろうか、続けられるだろうかと不安になりますが、先祖から受け継いだ田を守りたいと言う思いは同じです。操おじさんの経験から得た知識を教えてもらい、少しでも長く棚田を守り米づくりできたら良いと思います。」と答えてくださいました。

操さんにとって棚田は、ご先祖様そのものだと思います。その気持ちをわかってくれるのが、立和名さんだったのでしょ。

操さんはこれから先生となり、頼もしい教え子とともに、棚田を守っていかれることでしょう。

来年も尾木場の棚田が、稲穂の黄金色に染まることを楽しみにしたいと思います。



お問い合わせ先
日置市東市来支所
産業建設課
農地整備係
☎099-274-2114



農業体験学習の

魅力

※学校法人原田学園の西洋介先生は、授業の一環として子ども達と一緒に尾木場の棚田での米づくり体験に参加されています。
農業体験を率先して取り入れた、先生の思いをお伺いしました。



西 洋介さん

1. 農業体験学習を取り入れようと思ったきっかけは何ですか

教育者として多くの子ども達に関わると、物事に対して消極的で、他からの働きかけがないと行動しない子どもが多いように思います。

もっといろいろなことに興味を持ち、失敗を恐れず何事にも積極的な子ども育てたいと思いました。

2. 尾木場の棚田を選んだのはどうしてですか

農業体験イベントに参加することで、少しでも地域活性化に協力できるのではと思い、親の出身地である日置市内の棚田を第一条件にしました。

また平地の田でなく、耕作条件が悪かったり、先人の方々が一つ一つ石を積み上げ形づくった、美しい棚田のことを学習させたいと思いました。

3. 参加者の反応はどうですか

いつも何気なく食べているお米ですが、農業体験を通じて、親子でお米の生長や農業の大変さを話題に、会話されるようになったそうです。

また自分で刈ったお米が食卓にのぼることで、会話も弾み、美味しく食事を楽しんでいるそうです。

4. 農業体験がどのように活かされていくと思いますか

核家族化やパソコン・携帯電話の普及で、人と人とのコミュニケーション能力が失われていく現在です。

この米づくり体験では、職種や年齢が違う人達が同じ農作業をすることで、自然に助け合い・思いやりの心が生まれ、仲良く気軽に会話ができます。

このような経験の積み重ねが、大人になっていろいろな場面で活かされると思います。

また、コミュニケーション能力が養われるだけでなく、農業の大切さ、食の安心・安全に興味を持つことで、農業を職業として選択する若者が増えると期待しています。

5. これからも農業体験学習を続けますか

われわれの学園の子どもだけでなく、すべての子どもが体験できたら良いと考えています。

まずは農業体験の重要性を伝えられるよう活動を継続し、行政に働きかけていきたいと思っています。

6. 先生から一言

身を持って体験したことは忘れません。

労働の大変さや達成感、人との交流の楽しさを子どもの時期に味わうことは、これからの成長過程にとって、重要なことだと思います。

子どもにだけ多くのことを望むのではなく、親子一緒に成長できるように、いろいろなことに挑戦してもらいたいと思います。



尾木場の棚田についてのお問い合わせ先

日置市役所東市来支所 産業建設課農地整備係
☎099-274-2114

棚田についてのお問い合わせ先

■ 鹿児島県土地改良事業団体連合会 事業部 農村整備課 棚田等保全協議会かごしま（事務局）

〒892-8543 鹿児島市名山町10-22
TEL.099-223-6135 FAX.099-224-6228
HPアドレス <http://kagoshima-tanada.com/>

■ 鹿児島県 農村振興課

〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10-1
TEL.099-286-3108 FAX.099-286-5589

かごしま 棚田通信